

栃木県教育委員会定例会会議録

令和2(2020)年1月7日(火)、栃木県教育委員会定例会を栃木県庁南別館内教育委員会室に招集した。

1 出席者(教育長及び委員)は次のとおりである。

1 番(教育長)	荒川	政利
2 番	陣内	雄次
3 番	吉澤	慎太郎
4 番	鈴木	純美子
5 番	工藤	敬子
6 番	金子	達也

2 議事に参与した職員は次のとおりである。

教育次長	辻	真夫
教育次長	池田	聖
総務課長	桜井	裕
高校教育課長	中村	千浩
特別支援教育室長	松本	美智代
スポーツ振興課長	高橋	貴子
総務主幹	浅野	尚志
競技力向上対策室長	青井	智也

3 午前9時30分、教育長及び委員は全員出席しており、委員会は成立したので、教育長は定例会を開催する旨を告げた。

4 教育長は、本日の会議録署名委員に6番金子委員を指名した。

5 教育長は、本日の議案等のうち、第1号議案については、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項の規定に基づき、会議を非公開で行いたい旨を諮ったところ、全出席者の賛成により非公開とすることに決定した。

6 教育長は、報告を受ける旨を告げた。

7 報告

(1) 栃木県公立学校職員の給与に関する教育委員会規則の一部改正について教育長から説明を求められ、総務課長が説明した。

この報告に関して、出席者から質問や意見はなかった。

(2) 第1回次期栃木県教育振興基本計画懇談会の結果について教育長から説明を求められ、総務課長が説明した。

この報告に関して、出席者から次のような質問や意見等があった。

[委員]

- ・ 懇談会の意見には、共感できる点があった。「たくましさの育成、体験の

機会の充実」では、体験することの大切さ、人間関係を築くためのコミュニケーション能力の育成。先日の総合教育会議でも発言したが、自分の人生を生きていく上で、たくましさというものを育てていく必要があると思う。

- ・ 「教員・学校について」では、アウトソーシングを積極的に進めるべきだと感じた。

[教育長]

- ・ 年末に開催された総合教育会議において、皆様から教育大綱に関わる御意見をたくさんいただいたが、次期教育振興基本計画にも反映したいと考えている。

[委員]

- ・ 「計画策定の基本的な考え方について」の3点目にあるとおり、現行計画はよくまとまっているので、むやみに内容を膨らませることはしないほうが良いと思う。精選し、重点的に取り組むべき事項について、しっかりと考えていただきたい。
- ・ 「Society5.0の到来に向けて」のところでは、今の子どもたちはデジタルネイティブであり、それを使いこなすことは生きる力として重要であるが、リアルな世界と往還するような学びをしっかりとやらないと、バーチャルな世界だけで生きていくことになってしまうので、この点についてはよく考えていただきたい。
- ・ 「幼児期の教育の大切さ」については、教育界ではずっと言われてきている。幼児期の教育とは何かということを根本的なところから検討していただきたい。幼児期の遊びは重要な学びになる。幼児期の学びというと英語教育などに突っ走りそうな感じがしてしまうが、そうではなく、幼児期は徹底的に遊び、そこから様々な学びを得ていくということを大切にしてほしい。
- ・ 「新たに取り入れるべき視点」のところでは、SDGsについてはしっかりと取り組んでいかなければならないが、SDGsの本質を是非見極めてほしい。SDGsの本質とはトランスフォーメーションであり、トランスフォーメーションとは変革をしていくということである。持続可能な社会にしていくために、変革をしていける人を育てていくというのがSDGsである。栃木県教育振興基本計画ではSDGsの本質である変革をしていける人材を育てるための教育とは何かということをしっかり考え、新しい方向性を見極めていただきたい。
- ・ 「新たに取り入れるべき視点」のところでは、LGBTや外国にルーツのある方たちへの教育などについても考えていただきたい。

[教育長]

- ・ 幅広い観点から貴重な御提言をいただき、感謝申し上げます。

[委員]

- ・ 先ほども意見があったが、「たくましさの育成、体験の機会の充実」にあるとおり、やはり様々な体験が必要だと思っている。特に、5点目の「小学校までの実体験の不足」という点については、幼稚園や小学校において、体を動かす環境や勉強以外の体験の機会が整っているかということが重要だと考えている。しかしながら、外で遊びにくくなったり、学校への送迎が

必要になったり、子どもを取り巻く環境が変化している。子どもたちにそういった機会を作るには、「教員・学校について」や「家庭・地域について」にあるとおり、先生の業務をアウトソーシングし、地域がそういった活動を支援するなど、高校では部活動支援などの取組があるが、幼少期についても様々な支援ができる体制を強化していく必要ではないかと感じた。

〔教育長〕

- ・ 今回の懇談会では特にテーマを決めず、それぞれの委員の専門分野や日頃の思いを自由に話していただいた。教育委員の皆様からいただいた御意見も踏まえながら、今後整理していきたいと思う。

- (3) 令和3(2021)年度栃木県立中学校入学者選考関係諸日程について教育長から説明を求められ、高校教育課長が説明した。
この報告に関して、出席者から次のような質問や意見等があった。

〔教育長〕

- ・ 前年度と比較して、大きな違いはないということによいか。

〔事務局〕

- ・ 大きな変更はなく、例年どおりの日程となっている。

- (4) 令和3(2021)年度栃木県立高等学校入学者選抜関係諸日程について教育長から説明を求められ、高校教育課長が説明した。
この報告に関して、出席者から質問や意見はなかった。

- (5) 令和3(2021)年度栃木県立特別支援学校入学者選抜関係諸日程について教育長から説明を求められ、特別支援教育室長が説明した。
この報告に関して、出席者から質問や意見はなかった。

- (6) 「令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」及び「令和元(2019)年度栃木県児童生徒の体力・運動能力調査」の結果について教育長から説明を求められ、スポーツ振興課長が説明した。
この報告に関して、出席者から次のような質問や意見等があった。

〔委員〕

- ・ 毎年思うことだが、質問紙調査において、栃木県は肯定的な回答が全国平均を上回っている項目が多いのに、なぜ実技の結果が全国平均値より下回ることなのか理解できない。

〔事務局〕

- ・ 運動すること自体は嫌いではないと思うが、体力の結果がなかなか伴わないのは事実である。例えばボール投げでは巧み性や筋パワーが求められるが、思い切りやるという意識が欠けていることも結果に反映されているのではないかと推測される。

[委員]

- ・ 肯定的な回答が多いのに、どうしてそれが結果に結びつかないのか理解できない。ボール投げや実際に走るといった運動を体育の授業に取り入れることはできないのか。

[事務局]

- ・ そういった御意見を踏まえ、今後の結果につなげていきたい。現在は、市町教育委員会と連携して、指導者の研修拡充を図っている。また、今年度から体力向上サポーターとして大学生を小学校に派遣する取組を新たに開始したところである。分析結果を各学校にフィードバックし、子どもたちの良さをさらに引き出せるような取組をしていきたいと思う。

[教育長]

- ・ 体力向上サポーターについては、この調査後に取組を開始したので、来年度に期待したい。
- ・ 次期教育振興基本計画懇談会の意見交換の場でも出ていたが、雨が降ると保護者が子どもを送迎するというような部分については、学校現場だけで解決するのは難しい。教育委員会においてももしっかり取り組まなければならないが、子どもたちに体を動かす習慣を身につけさせるために、保護者に対してもアプローチを強化していかなければならないと思っている。
- ・ データによると、ボール投げについては全国も栃木県も10年前と比べて4メートルくらい低下している。これは由々しき問題だと思うので、引き続き教育委員会としてももしっかり取り組んでいきたい。

[委員]

- ・ 体力向上サポーターについて、具体的に教えていただきたい。

[事務局]

- ・ 体力向上サポーター派遣事業については、今年度から開始し、安足地区を中心に実施している。大学生が小学校の授業に参加し、子どもたちの運動の支援を行っている。子どもたちが非常に生き生きしているとのことである。

[委員]

- ・ 県北で実施するのはいつ頃になるのか。

[事務局]

- ・ 成果を踏まえ、今後検討していきたい。

[委員]

- ・ 自己肯定感が低いというのが日本の大きな特徴である。「自分には、よいところがある」ということが認められないと、「失敗を恐れなくて挑戦する」というところにつながらないと思う。大きく変革する時代の中で、自己肯定感が低いということは全てにおいてネックになる。さらに、男子と女子で比べると、女子のほうが低い。女性活躍などと言われているが、一歩踏み出せない要因と、何を改善すれば自己肯定感が高まるのかということの本気で考

えないといけないという感想を持った。

〔教育長〕

- ・ 確かに、中学校2年生の回答で、全国も栃木も「自分には、よいところがある」というのが二十数パーセントというのは、かなり問題だと思う。

〔委員〕

- ・ アメリカなどでは7～8割が自分を肯定的に捉えているのに対して、日本は非常に低いというのは、謙遜して正当な自己評価ができないのか、そういう文化なのか、しつけの問題なのか、その要因を見ていく必要があると思う。

〔教育長〕

- ・ 教育委員会全体で受け止めたいと思う。

〔委員〕

- ・ 図2のTスコアについては、グラフにするとマイナスのイメージを持ってしまいが、ポイントをみるとそれほど差はなく、どのように解釈すればいいのか教えていただきたい。
- ・ スコアが高い都道府県では、どのような取組を行っているのか。
- ・ 単純に運動するというだけではモチベーションにつながっていかない。子どもたちがこういうデータの意味を理解することが重要であり、理論的なことを学べるような取組を考えていただきたい。

〔事務局〕

- ・ Tスコアについてはそれぞれ偏差値で表しているが、記録を見ると大きな差はない。体力の上位県では、子どもたちは目標を持って取り組んでいる。先ほども話にあつたとおり、目標を明確にして、そういった能力を引き出すような取組が必要だと感じている。

〔教育長〕

- ・ 福井県や茨城県が高い数値を出している。体力向上サポーターについては、茨城県で実施している事業を参考として導入したものである。他にも良い事例があれば引き続き取り入れていきたい。

8 教育長は、一部順番を入れ替え、審議に移る旨を告げた。

9 第2号議案 令和2(2020)年度栃木県立高等学校の生徒並びに特別支援学校の高等部の生徒及び幼稚部の幼児の募集定員について
第2号議案は、審議の結果、原案どおり可決された。
この議案に関して、出席者から質問や意見はなかった。

10 教育長は、第1号議案については、先の決定のとおり、会議を非公開で審議する旨を告げた。

- 11 第1号議案 令和元(2019)年度栃木県教育委員会各種大会優勝者等表彰について
第1号議案は、審議の結果、原案どおり可決された。
- 12 教育長は、以上で本日の会議を終了することを告げ、午前10時20分、閉会した。